

ご参考資料



ピクテ・グローバル・マーケット・ウォッチ 2015年7月28日  
グローバル

# Pictet Global Market Watch

## 高成長が支えるバイオ医薬品関連株式

ここ数年、バイオ医薬品関連株式は大きく上昇しています。バイオ医薬品関連企業については、バリュエーション面では他の業種に比べ高いものの、利益成長率も相対的に高い水準で推移しています。今後については、研究データの蓄積や世界的な人口増、高齢化の進展などがバイオ医薬品関連企業の成長に寄与するものと考えます。

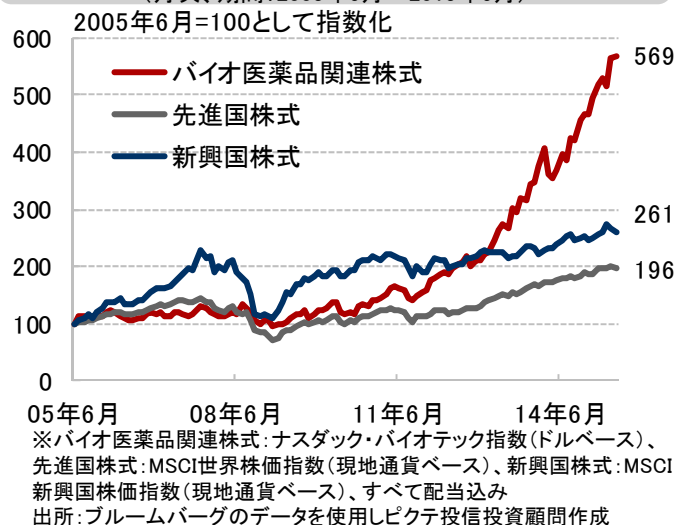
### バイオ医薬品関連株式、先進国株式、新興国株式を大きく上回って推移

バイオ医薬品関連株式の過去10年(2005年6月末～2015年6月末)の上昇率を見ると、代表的な株価指数であるナスダック・バイオテック指数(ドルベース、配当込み)は+469%となっており、先進国株式(MSCI世界株価指数、現地通貨ベース、配当込み)の+96%、新興国株式(MSCI新興国株価指数、現地通貨ベース、配当込み)の+161%を大きく上回っています。リーマンショックまでは、バイオ医薬品関連株式と先進国株式のパフォーマンスに大きな差はありませんでしたが、2008年後半以降、バイオ医薬品関連株式と先進国株式、新興国株式の間でパフォーマンスに大きな差が生じたことがわかります(図表1参照)。

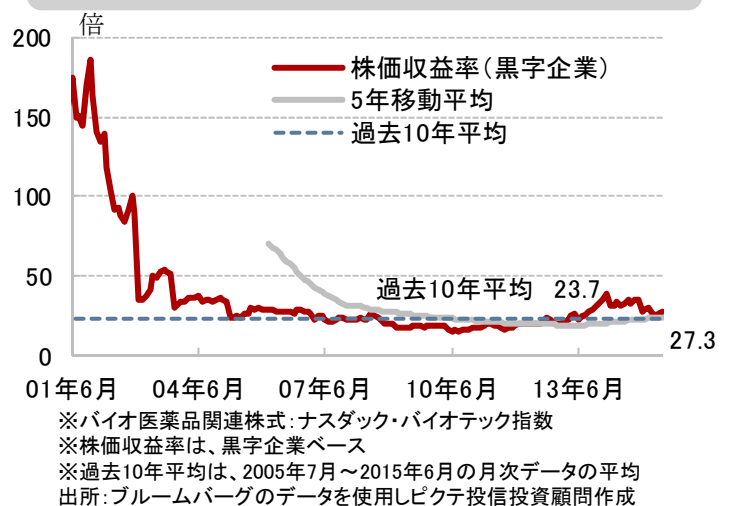
### バリュエーションは過去10年平均を上回る水準で推移も、低下傾向

ここ数年、良好なパフォーマンスを示しているバイオ医薬品関連株式ですが、2015年6月末現在の株価収益率(PER)(黒字企業ベース)は27.3倍となっています(図表2参照)。2014年7月には米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長がバイオ医薬品関連株式に対する割高感を指摘しましたが、その後も株価は上昇しており、PER(黒字企業ベース)は過去10年間の平均や5年移動平均よりも高い水準にあります(図表2参照)。そのためネガティブなニュースなどを受けて株価が調整するリスクもあり、その際には価格変動が大きくなる可能性があるため注意が必要です。黒字企業ベースのPERの過去の推移を見ると、バイオ株バブルが崩壊して以降、2010年6月に15.4倍まで低下した後、上昇に転じ、2014年2月には38.6倍となりました。その後は株価は上昇しながらも、PER(黒字企業ベース)は低下傾向となっており、この期間、バイオ医薬品関連企業の中でも黒字の企業の利益が堅調に伸びていたことがわかります。<次ページに続きます> (※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表1: バイオ医薬品関連株式と先進国株式、新興国株式の推移  
(月次、期間: 2005年6月～2015年6月)



図表2: バイオ医薬品関連株式の株価収益率の推移  
(月次、期間: 2001年6月～2015年6月)



データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

また株価売上高倍率(PSR)を見ると、2015年6月末のバイオ医薬品関連株式のPSRは9.3倍と過去10年平均、5年移動平均を上回る水準となっています(図表3参照)。PSRもバイオ株バブルの後、大きく低下していましたが、ここ数年は株価の上昇に合わせて上昇してきており、過去10年平均、5年移動平均を上回る水準での推移となっています。

### 相対的に高い1株あたり利益成長率が、相対的に高いバリュエーションをサポート

図表4は、バイオ医薬品関連株式と先進国株式、新興国株式、各業種毎でPER(黒字企業ベース)と1株あたり利益成長率の関係を示したものです。バイオ医薬品関連株式については、PER(黒字企業ベース)は先進国株式や新興国株式、各業種と比較しても高い水準にあります。2015年7月24日現在、今後3年間で1株あたり利益(黒字企業ベース)は年率で+15.4%増加すると予想されており、業種比較でみるとPERに相応しい水準となっています。

### バイオ医薬品関連企業の高成長を支える要因は今後も継続

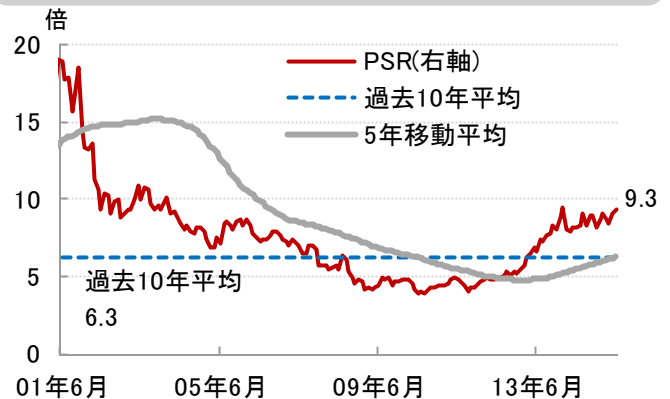
これまでバイオ医薬品関連企業は、画期的な新薬の当局からの承認、承認後の新薬売上の順調な伸びなどを背景に高い売上高の伸びを示してきました。今後についても、①バイオ医薬品業界における治験など研究データの蓄積、②米食品医薬品局(FDA)による承認のスピード化、③順調な資金調達、④ニーズの高い領域(病気)に対する医薬品の売上増、⑤世界的な人口増と高齢化の進展などを背景に、バイオ医薬品関連企業の成長は継続するものと見られます。

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

図表3: バイオ医薬品関連株式の株価売上高倍率の推移

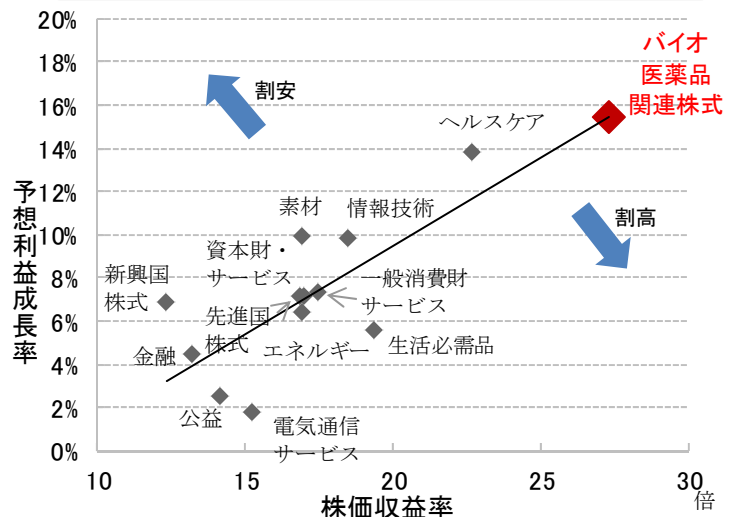
(月次、期間: 2001年6月~2015年6月)



01年6月 05年6月 09年6月 13年6月  
 ※バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテック指数  
 ※過去10年平均は、2005年7月~2015年6月の月次データの平均  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表4: 業種別株価収益率と予想1株あたり利益成長率(3年間)

(黒字企業ベース、2015年7月24日現在)



※バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテック指数、先進国株式: MSCI世界株価指数、新興国株式: MSCI新興国株価指数、業種別指数: MSCI世界株価指数の業種別指数  
 ※株価収益率は、黒字企業ベース  
 ※予想1株あたり利益(黒字企業ベース)成長率(3年間)は年率化  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# ピクテのウェブサイト 最新情報にキャッチアップ！

ピクテ

検索

<http://www.pictet.co.jp>

## Market News マーケット関連ニュース

ヨーロッパから見た世界のマーケット関連情報  
ピクテならではの分析はこちら



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/markets>

## Today's Headline 今日のヘッドライン

今、マーケットで注目の話題をプロの視点でレポート  
平日夕方 毎日配信中！

TH



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/headline>

## Fund Watch ファンド関連ニュース

ファンドの現状と日々変動するマーケットの関係を  
詳しく、解りやすく解説します

FW



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/fundinfo>

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。